



2020年1月20日

松江市内におけるリアルタイム複数拠点パソコン講座の実証について

株式会社エネルギー・コミュニケーションズ(略称:エネコム,本社:広島市,取締役社長:渡部 伸夫)は、松江市(松江市長:松浦 正敬),NPO法人Rubyプログラミング少年団(所在地:松江市,代表者:高尾 宏治)と共同で、2020年1月20日から2020年3月末までの期間、島根県松江市内においてリアルタイムに複数拠点を接続したパソコン講座の実証を開始します。

松江市は、産業振興施策「Ruby City MATSUE プロジェクト^{※1}」の一環として、プログラミング言語「Ruby^{※2}」および「スモウルビー^{※3}」を活用した小中学生向けのプログラミング教育に取り組んでいます。また、NPO法人Rubyプログラミング少年団は、市内中心部のJR松江駅前にある「松江オープンソーラボ」を拠点に小中学生向けのプログラミング道場やプログラミング体験会を開催しています。こうしたなか、松江市周辺地域の小中学生がプログラミング教育を受講するためには、松江市中心部に移動しなければならないという課題があります。

本実証では、松江市の「放課後子ども教室推進事業(通称:子ども広場)」の複数拠点をリアルタイムに接続し、子ども広場の児童が遠隔地の講師の指導のもと、パソコン講座を受講します。子ども広場の児童が遠隔地にいる講師とあたかも同じ空間にいるかのような感覚で講座を受講し、深い学びを得ることができるか、効果を確認します。これにより移動を伴わず誰でも気軽に参加できる学習環境の提供の実現を目指し、将来的には、遠隔学習による地域によらない学習機会を創出することが期待できます。

今日、日本では少子化や過疎化が進行する人口減少社会を迎えるなか、専門的な知識をもつ人材の不足が見込まれていることから、ICT^{※4}の活用や遠隔教育などにより、教育の質の向上や学習機会を確保することが求められています。

エネコムは、これまで取り組んできたICTの知見や経験を活かし、地域における学習機会の創出および地域のICT基盤の底上げに寄与したいと考えております。

※1: Ruby City MATSUE プロジェクト: OSSと「Ruby」をテーマとした、「Rubyの街」としての新たな地域ブランドの創生を目指した松江市の産業振興の取り組み。

※2: Ruby: Rubyアソシエーション理事長のまつもとゆきひろ氏により開発されたプログラミング言語。

※3: スモウルビー: Rubyをプログラミングに慣れていない人でも扱いやすいように、ビジュアルプログラミング言語化したものであり、NPO法人Rubyプログラミング少年団代表の高尾宏治氏により開発された。

※4: ICT (Information and Communication Technology): 通信技術を活用したコミュニケーションによる産業やサービスなどの総称。

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

株式会社エネルギー・コミュニケーションズ

ソリューション事業統括本部 事業創造部: 江角・川原 TEL 050-8201-1619

【NPO 法人 Ruby プログラミング少年団 概要】

代表者：高尾 宏治

活動内容：特に小・中学生を対象に、プログラミング言語 Ruby を活用して、プログラミングについて学ぶための教室運営などを行い、子どもの健全育成と情報化社会の発展に寄与することを目的に組織された団体。

◆実証概要

- ・ 期間：2020年1月20日～2020年3月末（予定）
- ・ 場所：島根県松江市
 - <対象箇所>
 - 松江市立母衣小学校内（松江市北田町 273 番地）
 - 松江市立持田小学校内（松江市東持田町 81 番地）
 - 松江市立古江小学校内（松江市古曾志町 1759 番地）
- ・ 内容：「子ども広場」を映像で繋ぎ、講師が遠隔地の教室に対してスモウルビーを使ったパソコン講座の指導を行う。
- ・ 各社の役割
 - エネコム
 - 映像伝送に関する機材・回線提供，効果測定等
 - 松江市（産業経済部 まつえ産業支援センター）
 - 「子ども広場」の現地調整，講座に関する機材提供
 - NPO 法人 Ruby プログラミング少年団
 - スモウルビーの教材提供，講座の講師

◆実証イメージ

